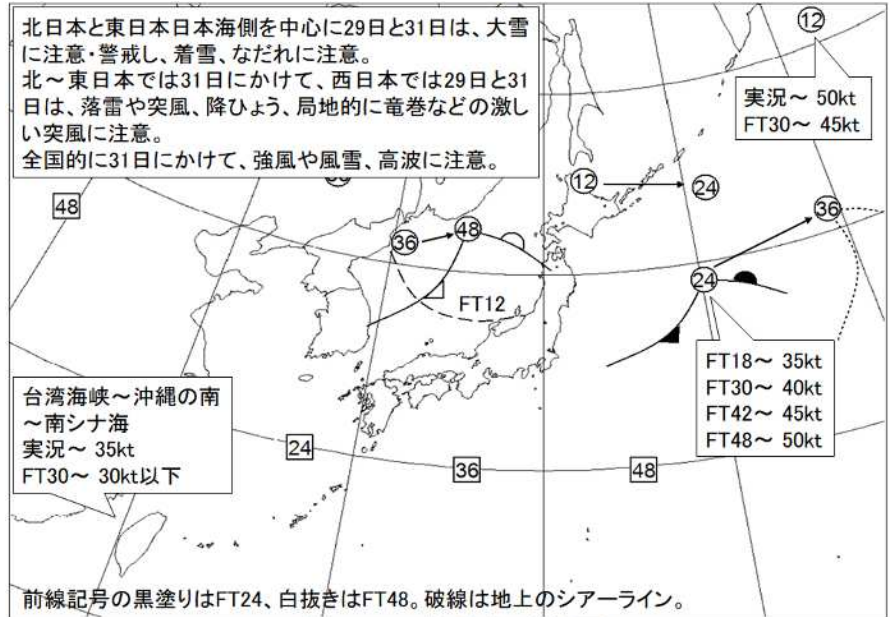


1. 実況上の着目点

① 500hPa 4980m以下の寒冷渦に対応してアリューシャン近海～カムチャツカの東～千島の東に連なる低気圧と、大陸の高気圧との間で、日本付近は強い冬型の気圧配置となっている。また、日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）が北陸地方を指向。

② 850hPaで-6℃以下の寒気が西～東日本太平洋側に、500hPaで-30℃以下の寒気が東日本付近に南下。北～東日本日本海側では、3時間に5～10cmの降雪を観測。また、冬型の気圧配置の影響で気圧の傾きが大きくなり、全国的にやや強い風や強い風が吹き、波が高くしけとなっている所がある。



主要じょう乱解説図

③ 500hPa 5280m付近で-39℃以下の寒気を伴うトラフが沿海州付近を東南東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 29日は、1項①の寒冷渦に対応する低気圧がまとまりながらベーリング海付近に進み、華中の高気圧が東シナ海に移動、冬型の気圧配置は西～東日本では緩み、JPCZも夜までに不明瞭になる。

② 30日は、高気圧が東シナ海から小笠原近海に移動し、北日本の冬型の気圧配置も緩む。また、500hPa 5280m付近で-33℃以下の寒気を伴うトラフに対応する低気圧が、前線を伴い日本海を東北東に進む。31日は、日本海の低気圧が千島近海に進み、前線が北～東日本を通過して再び冬型の気圧配置となる。

③ 850hPaで-6℃以下の寒気は、29日夜には西～東日本日本海側に、30日夜には津軽海峡付近に北上、31日夜には再び西～東日本に南下する。また、29日日中は1項③のトラフが、31日は2項②のトラフが北～東日本を通過して上空寒気が強まる。冬型の気圧配置やJPCZ、低気圧、上空寒気の影響で、北日本と東日本日本海側を中心に29日と31日は降雪の強まる所があり、北～東日本では31日にかけて、西日本では29日と31日は大気の状態が不安定となる所がある。大雪に注意・警戒し、着雪やなだれ、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

④ 冬型の気圧配置や低気圧の影響で気圧の傾きが大きくなり、全国的に31日にかけて、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量（06時からの24時間）：多い所（100mm以上）はない。②降雪量（06時からの24時間）：北海道・東北50、北陸40、東海30、関東甲信・近畿20cm。③波浪（明日まで）：北海道・伊豆諸島4、その他広い範囲で3m。④高潮（明日まで）：大潮の時期。北日本で注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雪に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。